



福島復興支援 ボランティア @飯舘村 報告集

2017・7・23(Sun)

24(Mon)

埼玉県立鴻巣高校

1～3年生 生徒有志



目次

第1部 活動の記録・・・2

第2部 文集・・・・・・・・・・6

編集後記・・・・・・・・・・19



[2日目の農作業後、菅野さん宅でスイカを頂く様子]

第 1 部

活動の記録

文責：2年男子



[1 日目、菅野宗夫さん(再生の会 福島代表)の講話。右上は内田理先生]

7月23日(日)
1日目

8:10 学校出発
9:40 上河内SAで休憩
11:20安達太良SAで休憩

昼食

12:20ふくしま再生の会の方

〈田尾さん[写真①]、内田さん〉と合流
小学校の仮校舎[写真②]

12:40菅野宗夫さん宅到着

菅野宗夫さん、溝口勝さんのお話[写真③]

村内見学 (バスツアー)

飯舘村役場
[写真④]

長泥行政区

(帰還困難地域のまま)のバリケード前[写真⑤]

飯樋行政区

(牛のいない牛舎[写真⑥]、子供のいない小学校[写真⑦]、
再開したうどん屋[写真⑧]、フレコンバック[写真⑨])

写真⑥



写真⑦



写真①



写真②



写真③



写真⑤



写真④



写真⑧



写真⑨

松塚行政区

(牛の放牧[写真⑩]、花の栽培ハウス[写真⑪])

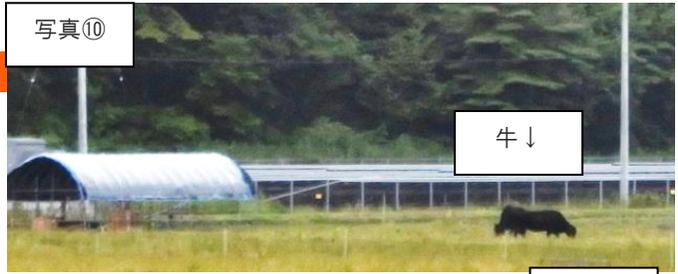
メガソーラー
巨大太陽光発電所[写真⑫])

山津見神社[写真⑮⑯]

宗夫さん宅、

ふくしま再生の会飯館事務所

写真⑩



牛↓

写真⑪

写真⑫



写真⑬

写真⑭



16:30 飯館村出発

17:00 りょうぜん紅彩館到着

入浴

18:00 夕食

19:00 休憩 お話

19:15 田尾さん、菅野さんとお話会

21:30 体験感想等記録

22:00 就寝



2画面分に、メッセージ

7月24日(月) 2日目

6:00 起床、健康観察、荷物整理

菅野さん宅での様子↓

7:00 朝食

8:00 りょうぜん紅彩館出発

8:30 飯館村到着 (雨天のため、資料を読み待機 電子黒板に寄せ書き)

農作業(コスモスの作付)開始



←①約1mまで成長した苗を選ぶ

11:00 終了<整頓、清掃>

③土と肥料を混ぜる

~11:30 休憩<着替え、スイカをいただく>

11:45 りょうぜん紅彩館で入浴

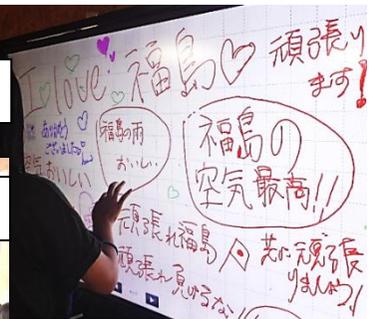
14:45 安達太良SAで昼食

16:45 上河内SAで休憩

18:30 学校着、諸連絡

18:45 解散

④運んだコスモスの、作付を行う



↑②苗を作付場所へ運ぶ



第 2 部 文集

文責：2年男子、3年男子



[1 日目、溝口勝教授(東京大学農学部・再生の会 副理事長)の講話]

「飯舘村」という読み方を知ることから、私の今年の学習は始まりました。昨年も参加させていただいた福島ボランティアには想像以上の深さがあることを二年間体験できた私は知っています。

まず、震災が日本で起きたのは紛れもない事実であるということです。報道で目にするものはあくまで情報であり、そこに隠された真実を実際に見ることはできません。同じ日本であるのにまるで遠い場所のことは見ているようで私は疑問に感じていました。高校二年生の時に知った鴻巣高校のボランティア活動の一つとしてこの活動があることを知り、参加するきっかけとなりました。

次にイメージで福島県を見てしまった過ちです。確かに体に害がある地域が六年たった今でもあることは事実だと Fukushima 再生の会の方々もおっしゃっていました。しかし同時に、風評被害や誤解などで苦しんでいる人達がいることも事実です。情報社会である現代でのメディアの影響力というのは計り知れません。良い悪い関係なく伝わってしまいます。それに頼っているのも私たちです。それでも、懸命に思いを伝えようと働きかけている人達の努力が十分に伝わり切れていない現実も思い知りました。

私たちが全ての現状も伝えることには限度があり、あの日に戻って今を伝えることはもちろんできません。しかし、徐々に復興させていくことは十分に可能です。埼玉から毎日通うことはできなくても、定期的に情報を取り入れ、時折現地を訪れることも可能です。それができなくても、一つでも多くの知識を一人でも多くの人に伝えることでそれは大きな復興への一歩につながるのではないかと強く感じました。まだ理解しきれていない問題も沢山あります。第三者の目線で見るとはならず、ともに超える意識を持つことで、十年後二十年後の世代を超えた日本の未来に繋がることを信じています。

(3年女子)

七月二十三、二十四日の二日間に福島県へボランティアに行きました。今回ボランティアは去年のときとはまったく違う内容で、放射能と原発事故について学びました。

福島県に着いて一番初めに渡された線量計。それをつけたときにこの村には本当に放射能がまだに残っているんだなと実感しました。福島再生の会のみなさんと被災した飯舘村の各場所を巡りました。フレコンバックという汚染されている土が入っているものがいろんな所に何個も何個もありました。震災からだいぶたっている今でもフレコンバックがおいてあるのもおかしいし、そういうのを見ると、まだ完全に復興できないんだなと思いました。

二日目の農作業ではコスモスを植えました。大雨の中でとても大変でした。土に肥料を入れて混ぜて、そこにコスモスを植える作業はボランティアのメンバー全員でやったから割と早く終わって、太陽光のパネルの周りのところにまで植えられてよかったです。秋になって、私が植えたコスモスがきれいに咲いているところを見に行きたいです。楽しみです。

今回二日間にわたって、なかなか聞けない貴重な話をわかりやすく説明してくださりありがとうございました。今回学んだことを自分たちがたくさんの人に教えて、福島県の復興に少しでも力になればいいなって思っています。ありがとうございました。

(3年女子)

福島ボランティアに参加するのは二回目でしたが去年とは内容が全然違っていたので、とても楽しかったです。二日間とも雨で外での活動が大変で少ししか無かったのが残念でした。

一日目はバスで色々な所を回って行ったり、初めて実物の放射線量計を使ったりして初めて知る事が多い一日でした。その内でも私が印象に残っているのは向日葵と山津見神社です。向日葵は景観を良くするため、農地を維持するためにたくさん植えられていて、私達が行ったときは雨で下を向いていましたが晴れたらキレイなんだなと思いました。また、他にもフェアリーベッチや菜の花も植えてあると聞いたので季節によって見えるお花が違っていいなと思いました。また、山津見神社は天井に狼の絵がたくさんあって一枚一枚手描きなので、みんな表現が違ってすごかったです。特に数少なく描かれていた白の狼が私は好きでした。

二日目のコスモスの植え替えは雨でビチョビチョになりながらでしたがとても楽しかったです。向日葵と同じように秋に景観を良くさせるためのお手伝いが出来て良かったです。雨で少ししか出来なかったのに終わってからスイカをいただきました。とってもおいしくて三つも食べてしまったと思ったら原口先生も三つ食べていたので安心しました。

この福島ボランティアの魅力は福島の今の現状を知れる事と一緒にいった人とも仲良くなれる事だと私は思いました。普段、関わりが無い人とも仲良くなれて一緒に学べるのはとても良い事だと思いました。私も今回のボランティアで友達が一人増えて、先生とも仲良くなれました。また、今回のメンバーで植え替えをしたコスモスが花を咲かせる時季に福島に行って今度は二、三泊したいなと思えるほど楽しくて充実した福島ボランティアでした。

(3年女子)

今回初めて福島ボランティアに参加しました。不安なことなどたくさんありましたが、とても多くのことを学びました。まず一日目のバスツアーでは、仮設の小学校・たくさんフレコンバック・人が住んでいない家・帰還困難区域前のバリケードなどを見ました。フレコンバックについては聞いたことしかなかったので、実際に初めて見てあんなにたくさんあってとても驚きました。バスの移動中では、多くの家を見たのですが、家はきれいなのに人が住んでいないと聞いて、寂しい気持ちになりました。そして帰還困難区域前にあったバリケードの奥は何も被害にあったようには見えませんでした。でも放射線という目に見えないものが他の市よりも値が少し高いため未だに入ることができないと聞き、地震や津波などと違い、目に見えない災害がどれほど危ないか学びました。それから今回私たちが行った飯舘村も三か月前に入れるようになったと聞きました。

その日の夜は田尾さん・菅野さん・内田先生と意見交換をしました。私たちが疑問に思った質問に対して詳しくわかりやすく説明してくださいました。中でも政府に対応してほしいという質問に対しての答えに、私は特に印象に残りました。「もっと住民の声を聞き、住民に寄り添って対応してほしい」「政府は実際に福島に来て真実を知り、真実を見るべきである」私も強くそう思いました。しかし政府だけでなく、私たちみんなも協力していかないといけないと思いました。自分たちに何ができるかを考えていく必要があると強く思いました。

二日目の農作業はコスモスの植え替えをしました。雨の中の作業だったのでとても大変でしたが、土地が荒れないようにするためと景観を明るくするためと聞き、一日でも早く村が再生することを願い取り組みました。

二日間を通して、福島の今の状況を知りました。今までテレビや新聞などでしか知らなかったため、今回実際に自分の目で見て、たくさん話も聞けてとても良い経験になりました。

(3年女子)

僕が飯舘村に来てまず初めに見たものは、フレコンバックの山でした。村中にいっぱいあることにとても驚きました。そこだけでも震災の被害がよく分かりました。放射能は目に見えず、見えないものとの戦いはとても大変だと思います。僕はこの震災が起き、原発が事故を起こすまで放射能という言葉も知りませんでした。知識が無く被災したらとても大変で、困ると思います。

自分たちの地域は自分たちでつくるという飯舘村はとてもすごいと思います。被災した土地を利用して花などを植え景観を良くしていました。僕が飯舘村へ行った日は、雨が降っていてひまわりも下を向いていましたが、たくさん咲いていてとてもきれいでした。花があるのと無いのでは人々の、住みたいと思う気持ちや戻ってきたいと思う気持ちも違うと思います。戻りたい人や、戻れる人戻れない人の気持ちがばらばらということを知り、僕がもし被災したらとても困惑し、大変だと思います。

実際に飯舘村へ来て、たくさんを知ることができ、とても勉強になりました。僕の知らないことばかりでした。僕はこの原発の事故は人災だと思っています。初期対応をしっかり行い、全員に知識があればここまでの被害は出なかったと思います。僕は原発を無くしたほうがいいとは思えません。しかし、事故を起こしたときの費用はとてつもなく大きく、さらにお金で解決する話でもありません。生活の安定のためにとてつもない努力が必要になります。燃料代が安く、原油を輸入に頼っている日本は原子力はとてもいい発電方法だと思います。ですがやはり事故が起きるととても怖いです。この事故で納得できない政府の対応が多いこともわかり、さらには関係の無いと思っている全国の人もしっかりと向き合っ取り組まないといけない事故だと思います。飯舘村に来ることができてとてもよかったと思います。とても勉強になりました。

(2年男子)

私はこの、「福島復興支援ボランティア」に参加させて頂いたのは二回目でした。昨年とは内容が違って、とても充実した二日間でした。たくさん勉強になりました。

飯舘村に初めて足を運びましたが、六年以上経った今でも被害の影響が残っていて、はっきりと覚えています。牛が飼われていたはずの牛舎には何もなくて、使われていない学校があって、きっと一年生だった子は、この学校で卒業することができなくて、戻れないまま今、中学二年生になっているのかなと思い、胸が苦しくなりました。三月だったということもあって、卒業するはずだった六年生や、入学して新しいランドセルを背負い、小学生になれるはずだった子どもたちのことを考えると、自然災害の恐ろしさと共に目頭が熱くなります。私自身も経験をしたこの地震のことは忘れられませんが。

大量のフレコンバックを見たとき、あまりにも沢山、広くに渡っておかれている光景が脳裏に焼きついています。田畑で美味しいお米や野菜を作っていた良質な土が放射能で汚染されてしまい、このフレコンバックに詰まっているとわかって、目には見えない放射能の怖さを改めて知りました。

昨年度はできなかった放射能測定は数値としてすぐわかるので、すごいと思いました。初めてだったので、少し緊張しました。たくさんを知りたいと勉強して学んだ中でも、人との交流が楽しかったです。とても優しい方々で、二日間有意義でした。

今回、このボランティアで得た知識を埼玉で家族や友人にしっかりと伝えることが大切で、ひとつの「使命」だと思っています。決して忘れることはない東日本大震災の被害からの復興に対して、少しずつできることからやっていきたいと強く思っています。色々と学ばせて頂きありがとうございました。お世話になりました。また来年も行きたいと考えているので宜しくお願い致します。

(2年女子)

福島ボランティアを終えて

私は今年の夏、初めて福島ボランティアに参加しました。理由は自分はこの震災について何かできることはないのかという気持ちからです。実際に福島に行って、現地の様子を自分の目で見て、体験することはとても貴重なことで、福島ボランティアが楽しみでした。しかし、私達が行く飯舘村は自分が住む地域よりも放射線が高く、まだ村の中でも立ち入りが禁止されているような場所もあり、少し不安もありました。

ボランティア当日、飯舘村に入り、村の中をバスで回りました。そこで実際に自分の目で見た現実や、お話により飯舘村への不安が除かれました。放射線量は基準よりも低く、自分の勝手な「福島」のイメージがなくなった気がします。

飯舘村で印象に残っていることは二つあります。一つ目は、少しでも景観を良くするために植えられたひまわりです。飯舘村は現在働く場所もなく、人も全然戻っていない状況で、少しでも良くするために、たくさんのひまわりが植えられていました。私はそのたくさんのひまわりを見て、とても気持ちが明るくなりました。このひまわりと一緒に飯舘村も明るく復興してほしいと思いました。なので二日目にコスモスの苗を植える手伝いできてよかったです。私たちが植えたコスモスが飯舘村の活力になればうれしいです。

二つ目に印象に残っていることは、福島の復興に対してあまりにも国が無関心だということです。本来、飯舘村は農業が盛んなのに、フレコンバックが畑の中に放置されているせいで、復興の妨げになっていました。しかし、国は汚染土を処理する術を考えていないと聞きました。あまりにも、無責任で非協力的だと思いました。しかし、飯舘村の人は、少しずつ自分たちで復興するための努力をしていて素晴らしいなと思いました。

この二日間の経験を今後に活かしていきたいです。

(2年女子)

この二日間でたくさんのことを知ることができました。原発による福島の被害は、テレビのニュースや新聞などで目にしていました。しかし、それだけでした。今回のボランティアで福島に実際に行き、現地の方々の話や気持ちを聞き、この目で福島の現状を見たとき、はじめて実感しました。

例えば、広い範囲を覆う黒いフレコンバックです。汚染されてしまった土を、持っていく場所も無く積まれていました。

帰還困難地域のゲートも実際には初めて見ました。地元の人でも、このゲートを見たことが無い人がいるらしいです。県民でも目をそらしているところがあるからと私の知人が言っていました。私たちを含め、現地の方々はもちろん、政府や県外の方などたくさんの人に現状を知ってもらいたいです。そしてそれを実際に体験したうえで、政府の人たちには対策の方法を改めて考えてほしいと思うし、力になりたいと思ってくれる人が増えてくれたらいいなと思います。

お世話になった福島の方々はとてもフレンドリーで接しやすかったです。また、たくさんのひまわりがそこには咲いており、とても素敵な景色が見られました。他にもフェアリーベッチという紫色の花やコスモス、菜の花などが植えてあり、それには景観を少しでも良くしようという福島の方々があります。二日目のコスモス植えの作業は、私もそういう思いでコスモスを植えました。

福島の方は、「来てくれるだけで嬉しい」と笑顔をみせてくれました。私でも力になることができるんだ、と思いました。同時に他にできることは何かを考えました。それはきっと「見て」「聞いて」「体験」したからこそ知れた真実を広く多くの人に伝えることなのです。

私たちの想いがたくさんの人に届きますように。

(2年女子)

復興へ向けて

私は、去年、福島復興支援ボランティアに参加しました。その時、福島の方達はとても温かく、自然豊かで食べ物も空気もおいしくて素敵な場所だと改めて感じました。なので、今年も福島復興支援ボランティアに参加して何か少しでも力になれたらいいなと思い行きました。

飯舘村には、複数の場所にひまわりがたくさん咲いていました。私は、ひまわりが大好きなので、見たときとても感動しました。ですが、これは放射性降下物を植物によって収奪しようという目的のひまわりによる実験圃場なのです。ひまわりを植えていない土壌の表面の放射線量は $5.28\mu\text{ Sv/h}$ ですが、植えてある土壌は $3.41\mu\text{ Sv/h}$ で比べると約 $2\mu\text{ Sv/h}$ も違います。ひまわりは見ると元気になれ、重要な役割を果たしていてすごいと思いました。また、飯舘行政区にある子ども誰もいない小学校を見ました。校庭には遊具があり、校舎はキレイなのに目に見えない放射能のせいで使えなくなってしまって胸がとても痛みました。また、この小学校に通っていた一〜六年生の児童たちは、自分が今まで通っていた学校に急に行けなくなり、辛かっただろうなと思いました。他にも牛のいない牛舎、たくさんのフレコンバックを見ました。こんなにもたくさんの土が汚染されていてびっくりしました。一日でも早く営農再開に向けて、地力回復したらいいなと思いました。

今回、福島復興支援ボランティアに行き、福島は復興に向けてがんばっていると改めて感じました。また、来年もボランティアに参加して福島のみなさんの力に少しでもなりたいです。

(2年女子)

初めて福島に行ってみて

七月二十三、二十四日の二日間で福島のボランティアへ行ってきました。私自身、福島に行ったのは今回が初めてでした。前から福島の状況を直接この目で見たいと思っていました。

現地に着くと、私が住んでいる埼玉とは全然違い、福島の方が涼しかったし緑豊かな自然、山がとても綺麗でした。特に、たくさんのひまわりが植えられたひまわり畑を見たときは私自身、とても感動しました。あとは、少し静かなイメージでした。家はたくさん建っているのに住人の方達は少ないように少し思えました。東日本大震災の影響で戻ってきていない人がいる為だと思いました。戻ってきてない人たちが帰ってきて震災前と同じ状況に戻ってほしいです。

二日間、たくさんのことを体験した中で一番驚いた時は、放射線を線量計で測った時でした。バスの中での数値はとても低かったのに、帰還困難地域で通行制限されていた柵の前で測ってみると数値が上がっていくのには驚きました。また、その所の土に近づけるとさらに数値が一気に上がっていたのにはもっと驚きました。福島では線量計は欠かせない必需品ということが分かりました。

二日目は、たくさんのコスモスを植えました。雨の中ですごく大変でしたが、すごく楽しかったし、とても良い体験になりました。私の住んでいる家の近くにも、とても大きいコスモス畑があります。とても綺麗ですし、私が植えたコスモスも順調に育ってほしいです。

この二日間は、私にとってとても貴重な体験になりました。メディアは、もっと福島の特集をやるべきだと思います。日本人、一回は福島に行くべきだと感じました。ボランティアで学んだことは、友達、家族に伝えていきたいと思います。貴重な二日間、ありがとうございました。

(2年女子)

僕の五感を揺さぶるふくしま

私は、今回のこのボランティアを通して福島よさ、震災の被害を受けた地域の人達がみんなに伝えたい気持ちなどを知ることができました。

福島は、とても空気がきれいで自然が多くてすごく良いところだと思いました。自然が多いことがとても印象的でした。

6年前の東日本大震災の被害を受けた福島を、周りの人は6年経った今でも放射能がいっぱい飛んでいて近づきたくないと思っていることもあるようですが、それほどの放射線量ではありませんでした。福島にいる間、放射線量を測る機械を付けて過ごした結果、他の県の放射線の数値と全然変わりませんでした。このことは一度福島へ行って体験しないと分からないと思いますが、福島は放射能が今でも多く飛んでいると思われて、農作物などの出荷量が少なくなっています。放射能はみんなが言う程多くはないし、放射能のかかった土をすべて取り除いてあるから農作物に問題が無いようにしてあり、大丈夫だと福島の人達は言っていました。その証拠にフレコンバックという放射能のかかった土を閉じ込めた黒い袋があります。

これらのことから福島に行ってみて今の状況、福島の良さを知ることが出来ました。とても良い経験になりました。

(2年男子)

一泊二日の福島ボランティア

七月二三日～二四日の一泊二日で福島県飯舘村のボランティア活動に参加しました。事前学習では、飯舘村についての情報や被害の大きさなど色々なことを学んで、近況を知ることができました。

ボランティア当日。朝八時に集合し、四時間近くかけて福島に行きました。福島県飯舘村に近づくにつれて、バスの窓からは緑が多くて自然豊かな田園風景になりました。飯舘は本当に被害を受けたのかと疑うぐらい自然豊かなすばらしい町でした。

雨が降っていたので予定と異なり、バスの中で現地の人々の話を聞きました。あちらの方々の思いを聞いて、自分の考えを改めないといけないなあと思いました。放射能を測る高さによって濃度が変わることに驚きました。また、閉鎖している地域やフレコンバック(放射線濃度の高い土が入っている袋)を見たとき、飯舘村が受けた被害とともに現状も分かりました。

その後、りょうぜん紅彩館に着きました。宿の方々が僕たちを歓迎してくれました。広い浴場に、おいしい夕食・朝食があり、落ち着いた雰囲気ですばらしい宿でした。部屋では、友達と色々語り合えて、はしゃげてとても楽しかったです。いい思い出となりました。

二日目。朝から激しい雨が降っていて、農作業をやるのが微妙な状態だったけど、コスモスの植え付けをやりました。けっこう大変だったが、雨に濡れながらの貴重な体験となりました。景観を良くするために植えたひまわりと一緒に、コスモスもきれいに咲いてほしいです。そのときに、もう一度訪れてみたいです。

去年とは違った体験ができて、現地に行かないと分からないことや聞けない話を聞くことができた。ほんとは行って良かったです。ボランティアを通して学んだことをぼくは伝えていこうと思います。

(2年男子)

コスモスに願いを込めて

今回、ボランティアに行ってみて自分が想像していた事以上にひどい状況で、まだまだ復興していないことに悲しくなりました。

もう六年も時間が経っているのにフレコンバックの山が村の中に大量にあって驚きました。バスの中で田尾さんが「畑に一回フレコンバックを置いてそれから違う場所に運ぶと国が言ったのに何年経ってもずっと放置されたままです」と言っていたことに対して衝撃を受けました。国は無責任すぎるし、本当に適当だなと思いました。おまけに田んぼの畦だけは放射能が付いた土を取り除いておらず、畦だけ土を取り除かない理由も福島の人が聞いても答えられない状況なのは本当におかしいと思います。自分たちは被害にあっていないから平気なのかもしれないけど、もっと福島の人達のことを考えるべきだと思います。政府の人達は福島で生活をして、福島の復興に対してもっと努力するべきだと思います。それに対して、福島を再生しようと頑張っている人達は本当に偉いと思いました。自分たちは被災して、傷ついているのに、前向きに考えていて、本当にすごいと思いました。そのような人達がいる限り、絶対に福島は再生すると思います。だから、話を聞いて本当に良かったし、私も頑張ろうと思いました。大雨の中コスモスを植えたのは大変だったけど、少しでもきれいな外観を取り戻してほしいと心を込めて植えることができました。秋にきれいなコスモスが満開になってくれることを願っています。そして、大変なことだけど、福島が元に戻ってくれることを願っています。

(2年女子)

この福島復興ボランティアに参加して、いまの飯舘村の状況や、ふくしま再生の会のいま現在の状況を知ることができました。

二日間とも悪天候で、予定通りに見学できなかったところもあり、とても残念でした。福島県飯舘村は、3.11の地震や津波の被害は大きくはなく、本来であればすぐにでも避難場所から戻ってくることができたはずで、復興に向けて大きく進捗していたはずかと思います。しかし、そこに福島原発の事故が重なり、放射性物質の被害を受けた長い間避難を余儀なくされていました。今年になり長泥地区付近以外の全地域が避難区域から解除され、これからこそ本格的に飯舘村の再興に取り組みれるものと思います。農作業体験で、土を掘り返す作業、掘るたびに硬い音がしました。本来作物を育てる土が、あれ程粗いなんてことはありません。そこにも、現状を知れるものがありました。私が特に感じたことは、家屋に生を感じられなかったということです。事前学習で配られた資料で、飯舘村の人口はいまだ半数ほどしか戻っていないといわれていて、生を感じないことは当然のものなのかもしれません。しかし、私は村全体がそのような状況であることにいまだに驚いてなりません。どうしても、街には人がいるものだと思ってしまうからです。これほどの悲惨な状況だったとは知りませんでした。最近ではメディア、マスコミが災害時に被災地を見世物のように取り扱っていて、恐らく全国の一般人は被災地の本当の声をすることは出来ていないのだと改めて思いました。当時の政府は原発を稼働させておいて事故後に何の対処もせず逃げ、いま必死になって現政府を叩いていますが、彼らが本当に日本人の代表なのか、そもそも日本人なのかすら、疑問に思います。

被災から六年たった今こそ、日本全国が協力しなければなりません。一人一人できることをし、一刻も早い復興を実現させたいです。

(2年男子)

震災から六年が経った今、福島県は少しずつ活気が戻っているように見えました。福島県産の米や野菜、果物はおいしく安全に食べることができます。しかし、実際に福島県を訪れると厳しい現実を見ることとなりました。

今回訪れた場所は飯舘村というところでした。私はそこで、本来ならば子供たちが元気に通うはずの小学校に全く人がいないのを見てとても驚きとどこか寂しさを感じました。その小学校に通っていた子供たちは、今は仮設の小学校で他の二校の子供たち全三校と一緒に勉強しています。新たな小学校が建設されたら、たくさんの子供たちが元気に通って、たくさん勉強する姿を見てみたいです。そして、田んぼの上に見上げるほど積み上がったフレコンバックがありました。私は福島県について勉強するまでフレコンバックというものが何かを全く知りませんでした。しかし、福島県へ行き実際に山のように積んであるフレコンバックを見てショックを受けました。震災から六年が経った今でも、放射能を含んだ土が福島県にたくさんあって、どこを見て回ってもフレコンバックだらけでした。なぜ減らないのかというと、政府が対応してくれないからでした。私はもっと政府に福島の課題を知って、実行に移してほしいです。福島県で起きてしまった事故を軽く見てはいけないと思います。もっと真剣に復興について考えていくべきだと思います。それは、政府だけでなく日本国民全員がこれから考えていくべき課題です。だから私は、福島県が少しでも輝きを取り戻せるように、ボランティア団員としてまた福島に来たいと思います。

(2年女子)

そうだ、福島へ行こう。

私は、今回の福島ボランティアを通して人間の素晴らしさを知ることができました。6年前の東日本大震災を経て、復興しているところがあれば、まだ手の届いていないところもあることを知りました。私は、6年も経ったのである程度の良い状況になったり、放射線が減少していると思っていましたが、予想以上に被害を受けていて放射線が多く未だに許可が無いと入れない場所がありました。被害の影響で移住せざるを得ない人たちがいて、その方々はとても辛い思いをして移住したと考えると胸が痛みました。放射線の混ざった土をフレコンバックと言うそうで、そのフレコンバックが色々な箇所にあって汚染された土を取り除くにも時間や費用がかかってしまい、他のことにも手が回らないのかなと思いました。

福島の復興ボランティアの方々には、私たちに福島の良い事や被害で起きた良くない事を教えてくれました。もし、震災が起きたときに放射線の高さが分かる装置を持って歩いていれば、逃げる時に放射線が高いところが分かり、自然と逃げるべきところが分かったと言っていました。しかし、当時は使われず、良くない事態が起こってしまったようです。このようにアイデアを出しても採用されないのはとても後悔や悔しさが残るものだと思います。だからこそ、若い私達はその事実を多くの人に伝えていって、万が一の時のために予防すべきだと思いました。

私は、今回のボランティアでとても多くの事を教えてもらえて、とてもいい経験になりました。福島に栄光あれ。

(2年男子)

福島とフレコンバックと僕

僕は生まれて初めて福島に行きました。今の福島の状態は思っていたよりも良かったです。しかし様々な機械を通して見てみると、まだ放射能の影響があり、元に戻って来ている住民が少なく静かな印象はそのままでした。

まず1日目はバスツアーでした。バスで様々な所を回りました。子供がいない学校や、最近また営業を始めたうどん屋さんなど、様々な場所を周り、色々な説明を聞きました。その中でも一番印象に残っているのがフレコンバックです。フレコンバックの中には放射能のかかった土が入っていて山のように置いてあります。またそのフレコンバックを置いている場所や、また、そのフレコンバックを置いている場所や置き方などにも色々考えがあって、すごいと思います。

2日目には農作業でコスモスの苗を植えました。雨の中でとても大変でしたが、全員で協力して無事終わらせることができたので良かったです。今福島にはコスモスやひまわりなどの花がたくさん植えられています。理由は今福島を離れている元住人の人達に戻って来てもらうためや、福島印象を良くするためにと、すごくきれいに植えてありました。その一部に協力できたのはとても光栄なことで嬉しかったです。これからは福島ボランティアで生かされたことを、様々なことに更に生かしてゆきたいです。また、次回このような機会があったら積極的に参加して、貢献したいと思います。とても良い体験ができ、良かったです。

(2年男子)

私は今回この福島復興支援ボランティアに参加して、放射線の事を知れた良い機会になりました。

最初にバスの中で見た飯館村は、車はあまり走っていない、家はあるけど人が住んでいる感じがしないような家がありました。事前学習で勉強したフレコンバックも写真で見た時よりも色々な場所にたくさんつまれていました。景観を良くするために植えられたひまわりはとても綺麗でした。

一日目は菅野さんのお宅で話を聞き、村役場、山津見神社、バリケードに行き、夜は宿で話を聞きました。役場では心和ませ地藏から流れる村歌を聴きました。山津見神社では狼の絵がたくさんあるのに全部違う絵になっていてすごかったです。帰宅困難地域はバリケードがあって入れないようになっていてその前まで行きました。実際に放射線測定器で測って見たら、普通に持っている時と地面に近づけて持っている時とで同じ場所なのに数値が全然違ってびっくりしました。

二日目はコスモスを田んぼの周りに植えました。普段こういう体験をしないのでとても新鮮でした。私の年齢でも作業はけっこう大変だったのにおじいちゃんおばあちゃんがやっているんだと考えたらすごいなと思いました。単純な作業でも慣れていない私にとっては難しかったけど楽しかったです。コスモスが一面に咲くのが今から楽しみです。

この二日間たくさん話を聞いて田尾さんが仰っていた政府は一回でも住んで現状を知るべきだ、菅野さんが仰っていた福島現状を色々な人に伝えてほしいという強い訴えが印象に残りました。私たちに何ができるのか、それはいろんな人に伝える事、福島に行ってみる事なのではないかと思いました。

(2年女子)

私は、今回福島へボランティア活動として行ってみてとてもいい機会になりました。車酔いとか大変なこともありましたが、それ以上に多くのことを学びました。

私自身、東日本大震災についてテレビで放映されているのを観てずっと何かできないかと考えていました。今回のボランティアは私にとってとても大きな一歩となりました。まず、私が今回一番驚き、知識不足と感じたことは、放射能は土に溜まるということでした。私は土ではなく空気だと勘違いしていました。まだまだ、自分は勉強不足だと思ったけれど私のほかにも同じような勘違いや決めつけをしている人も少なくないと思います。実際に行ってみることの大切さを身にしみて感じました。

実際に行ってみて一つだけ想像と変わらなかったものがあります。それは日本政府や東京電力の対応です。あまりにも無責任だし、本当に信用を失いました。福島の方々が、もし避難するとき知識があったら被害も減ったかもしれないけれど、避難指示を出すのが遅かったり除染が追いついていなかったり怠慢が浮き彫りになっていると思います。これから、政府と東電がどうにか福島被害者のために少しでも働いてほしいと思っています。

私が、福島に行って学んだことはたくさんあります。まだ、足りない知識もたくさんあるのでこれを機にたくさん学んでいきたいと思っています。実際に行ってみて学ぶことをこれからはより一層大事にしていきたいと思っています。そして、福島のことをあまり知らない友達や家族に事実をどんどん伝えていきたいです。今回、たくさんの知識を与えてくださったふくしま再生の会の方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。知識だけではなく思い出も得ることができました。秋には、皆で頑張った植えたコスモスが咲いたらいいなと思っています。最後に、来年もぜひこの企画があれば参加したいです。

(2年女子)

今回の福島ボランティアを経て、たくさんのことを学びました。震災から七年が過ぎようとしている中、七年前ととても変わってしまった風景を目にして驚きました。テレビで見ていたものとあまりかけ離れていたからです。やはり自分の目で見て物事を考えることは大切なんだということも学ぶことができました。原発の事故は人災だ、というのは前々から聞いていたのですが、いまいわからなかったです。ですが、田尾さん、菅野さんたちのお話を聞かせてもらっているうちに、バスで福島を走っていたとき、やっとその意味がわかりました。フレコンバックの山。どこを見渡しても高く積んであるフレコンバック。テレビでは放送されていなかったと思います。

私はボランティアに行く前、もう七年も過ぎたんだし、ある程度の復旧作業は終わってきれいになってるだろう！と思っていました。ですが現実はその甘いものではありませんでした。放置されて一面草だらけになった畑や田んぼ、高く積まれたフレコンバックの山、人のいない、車の通っていない町。正直な感想は、ここは本当に福島？でした。私もよく福島に行くので、驚きました。それでも少しでも景観をよくするために道端にコスモスを植えたり、とてもいいことだと思いました。福島には生きるための教材たくさんある、とおっしゃっていましたが、本当にその通りだと思います。もう震災の記憶が薄れてきている人が多いと思いますが、決して忘れてはいけないことだと思っています。後世にも残していかなければいけないと思います。そのために今、私たちにできることは何かを考えるのも福島復興への一歩なのではないかと思っています。

(2年女子)

僕が福島に行ってまず思ったことは今の自分の生活に感謝しなければいけないと思いました。そしてもっと被災地を応援し一日でも早く元の福島にもどりたいと思いました。

すごく衝撃的だったことは行き止まりの向こうの村です。なんだか異様な雰囲気がしました。そして行き止まりの手前の放射線の高さにとってもおどろきました。放射線はどうすれば少なくなるのかと思いました。あと、フレコンバックの量にとってもおどろきました。あのフレコンバックは一生あの場所に置いておくわけにはいかないと思うし、どうにかして処分しなければ復興には近づけないと思いました。

もう一つは生徒のいない学校や、動物のいなくなったところなど見ていてとても心が痛くなりました。これらのことを見て国や政府の人々はこちらの災害に向き合うべきだと思ったし、もっとお金を被災地につかうべきだと思いますし、オリンピックに使うお金があれば被災地のためにつかうべきだと思いました。みんなが募金したお金が被災地につかわれているかと疑問に思います。

ぼくはこのボランティア活動を通じてもっと被災地に貢献をしたいと思いました。飯館村はお花がたくさんあるし、池もたくさんあってとても自然豊かでうらやましいです。畑に植えたお花もきれいに咲くといいなと思っています。また来年も行きたいです。

(2年男子)

学んだこと

僕は、今まで福島含め、東北の事があまり分かりませんでした。東日本大震災で多くの被害を受けたことはもちろん知っていましたが、あれから6年が経ち、正直落ち着いたと思っていました。しかし、実際に現地に行ってみると、そこには大量のフレコンバックの山や、人や牛のいない牧場、人の住んでいない民家などがたくさんあり、そこだけ時間が止まっているみたいでした。またそれ以外にも放射線という問題があり、僕たちは現地に着くとすぐに放射線を測る装置を付けました。このとき初めて放射線が飛んでいるんだなと思いました。放射線は目に見えないものなのでとても怖かったです。6年も経っているのにまだ除染が追い付いていないそうです。

旅館に着いて田尾さんから、詳しく今の現状などを教えてもらいました。国の対応は、口だけで実行してくれないことが多いそうで、実際に福島に来て暮らしてみた方がいいと言っていました。僕はその話を聞いて、その通りだと思いました。福島だけでなく東北の現状は、実際に行ってみないと分からないと思いました。また、オリンピックなどで盛り上がっていますが、もっと東北の復興にお金を回すべきだと思いました。

今回のボランティアで多くのことを学びました。福島はとても素晴らしい場所だと思いました。来年も行きたいです。



(2年男子)

[1日目の夜、旅館にて、(左から)菅野さん・田尾さん・内田さんとのお話し会]

「被災地を知り、未来に生かす」

紅彩館でのお話の時にこの言葉を聞き、色々考えようと思いました。

私は今までに二度、大きな震災を経験しました。一つは去年起きた「熊本地震」、そしてもうひとつが今回ボランティアに行った福島県を含めた東北、関東が被害にあった「東日本大震災」です。幸い、どちらの震災もあまり被害がなかった県に住んでいたため避難などはしていません。また二次災害も起きていない場所にいたので特に気にしてきませんでした。

今回ボランティアとして福島に行き、自分の考えの甘さや様々な事を学ぶことができました。また原発事故による町、村の人の複雑な気持ち、怒りや呆れなど色々考えることができました。そして自分がどれだけ幸せな思いをして今まで生きてきたのかを知ることができました。

冒頭に書いたあの言葉。私は帰ってから考えつづけています。どうすれば多くの人々が被災地を知り、未来にいかすことができるのかを考えつづけています。正解はないと思いますが私なりに思いついた、考えた答えは「この活動をずっと続けて、将来的には日本、世界に広めること」です。このボランティア活動を鴻巣高校だけでなく埼玉県、関東、本州、日本全国、そして世界へと広め、この先何十年もの原発事故のことや東日本大震災のことを忘れずに、忘れられないように記憶に残り教訓にできるようにバトンをつないでいきたいです。

(2年女子)

ボランティアで学んだこと

私は今回初めてボランティアに参加させていただきました。中学校の頃は、そういったものに参加する機会がなかったため、今回が初めてのボランティアになりました。

私が福島県飯舘村へ行き、一番印象に残ったのは、現地の皆さんから聞くお話でした。原発事故から六年がたち、飯舘村への居住が出来るようになったものの、六年という月日の間に元村民の方々も村外の生活に慣れ、村へ戻って来たらまた新しい生活になるため、戻ってこない人が多いと聞きました。また、甲状腺癌は八日から一六日の間に被災地から逃げるのが大切で、事故の時に正しい情報が無かったため、数値の低いところから高いところに避難してしまった人もいたと聞きました。この甲状腺への被災は特に子供に出ていて、甲状腺癌の子が通常より多いとおっしゃっていました。このような被災は人災か天災かという問題に繋がっていきます。現地の方の考えとしては、津波が引き金となったが人災であるとのことでした。しかし政府は天災だと言うそうです。これは東電や政府が責任を持ってないためです。そんな政府に対して一ヵ月、あるいは一年飯舘に住んでみて真実を自分自身の目で見て知るべきだとおっしゃっていました。私が実地見聞し、印象に残ったのは田んぼの利用の仕方についてです。田んぼには大量のフレコンバックが積まれていたり、荒れ地にならないように花が植えられていたり、牧場として利用されていたり、さまざまな活用の仕方がありました。けれども作物を作っている所はほとんどなくなっていたことにショックを受けました。

そんな福島県飯舘村について出来ることは、私たち一人ひとりが考えることです。原発事故や放射能について考え、学び、そして、実際はどうなっているのか見ることが飯舘村にとっても私たちにとっても良いことになると思います。原発事故の被害者は福島の人だけでなく私たち自身も立派な被害者です。

(1年女子)

編集後記

今回のボランティア活動で、もっと被災地に貢献したいと思いました。	編集長 Y. H
今回のボランティアでたくさんのことを学びました。とても楽しかったです。	副編集長 D. M
文集の編集係になって沢山の人の感想を見て、7月末に行った福島ボランティアの事が鮮明に思い出すことができたので良かったです。	編集 Y. S
今回のボランティアで今の福島の現状を知ることが出来、良かったです。	編集 S. H

福島復興支援ボランティア@飯舘村

報告集

発行:2017. 9. 5

編集:埼玉県立鴻巣高校

福島ボランティア 記録係

引率:原口利雄、金澤みなみ

